



会員同士の交流のコーナーです。お便りをお待ちしています。

♡会員紹介♡

鍋田 都さん (東京YWCA専門学校ケアワークコース卒)

鍋田さんは、当法人の講師派遣事業において、講師をしてくださっています。このたび会報や会員のしおりの作成にあたり、ステキなイラストを寄せてくださいました。本当にありがとうございました。

東京YWCA会館を正面からみるとこうなんだ、と毎日のように見ている事務局スタッフもびっくり。温かな雰囲気であられた会館の実物を見にぜひお立ち寄りください。イラスト地図片手に道中楽しく歩いてきてください。会員のしおりの表紙他も鍋田さん作です。

◆◆◆ Information ◆◆◆

**東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター会員の皆様に会員のしおりと会員証をお送りいたします。**

東京YWCAヒューマンサービスサポートセンターは2016年度設立6年目を歩んでいます。

当法人満5歳を記念しまして「会員のしおり」と「会員証」を同封いたします。ご査収ください。

なお、当法人主催の講習会にご参加いただきますと、参加回数によってプレゼントがあります。ぜひ会員証をお持ちになってご参加ください。

**特定非営利活動法人東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター会員入会のご案内**

会員数 96 (正会員 79 団体会員 6 賛助会員 11) 2016年12月1日現在

～会員になって、東京YWCAヒューマンサービスサポートセンターを支えてください。～

会員特典：NPO主催の講習会費の割引、講師派遣研修費の割引等があります。入会申し込みは事務局まで。

**今年度の会費の振込み、お忘れではありませんか？**

**年会費**

正会員 3,000円/年 賛助会員 一口 10,000円/年 団体会員 20,000円/年

**会費振込先**

(ゆうちょ銀行と東京三菱UFJ銀行の二箇所あります)

◆株式会社 ゆうちょ銀行 記号 10170 番号 80995501

◆東京三菱UFJ銀行 神田支店 口座番号 普通預金0138637

口座名義 (2箇所とも口座名義は共通)

特定非営利活動法人 東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター 代表理事 遠藤久江

発行所 特定非営利活動法人 東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター

発行人：石井須美子

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台一丁目8番11号 東京YWCA会館216号室

TEL・FAX 03-6273-7134

E-Mail: [info@ywca-hssc.jp](mailto:info@ywca-hssc.jp) ホームページ: <http://ywca-hssc.jp/> [東京YWCA hssc] で検索

2016年12月26日～2017年1月4日 冬季休暇をいただきます。

編集人 大庭 幸 表紙イラスト 鍋田 都



特定非営利活動法人  
東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター

会報

見守り

支え

伝え合う

私たちは、福祉・介護の仕事のゆたかさを広げる活動を推進します



## 会員 大井 妙子さん (東京YWCA専門学校ケアワークコース卒)

### 「地域の中で生きることを願いながら」

当NPOの会員で理事の、大井妙さんは、NPO法人ももの会の代表でもいらっしゃいます。地域で支え合う場として、「桃三ふれあいの家」「西荻まちふれあい・かがやき亭」を設立し、サービスを実践していらっしゃる大井さんに、お話をうかがいました。



### 地域の人の居場所づくりのキッカケ

私は、現在、杉並でNPO 法人ももの会が運営する、高齢者デイサービスセンター事業「桃三ふれあいの家」と地域の人の居場所・西荻まちふれあい「かがやき亭」の運営にかかわっています。デイサービスセンターは介護保険法スタートを同じくして2000年4月から、又かがやき亭は2011年からの運営です。

運営するキッカケは、いくつかありますが、一つにはボランティア活動から見てきた高齢者の暮らしぶりを何とかしたいという思いでした。又、一つには介護保険法の勉強会を重ねる内に介護保険に疑問を持つようになりました。いよいよ国の法律として決定した時は、実施者として内に入って、介護保険の内容が介護の売り買いにならないようなデイサービスセンターにしたいという気持ちがありました。

そして最も大きな動機は、田舎にいる母の言葉でした。療養中の母を毎週のように、こどもを助手席に乗せて高速道路を6～7時間かけて世話をしに帰省する私に、ある時「もう帰ってこないで。私はこの町の人に支えられて何とかやっているから。わたしのことを心配してくれる分、あなたは自分の住んでいる街の困っている人に親切にしてください。」といったのです。とっさには母の言葉が理解できず、拒まれたような気持ちでした。

しばらくして、その言葉は娘や孫への気遣いだけでなく、深い示唆があることに気づきました。その後、自分の住んでいる街で、仲間とボランティアをしたり、高齢の人の困りごとなどを調査したりしました。自分の住んでいる地域を見つめる大切さを教えてくれたと思っています。

### 東京YWCA専門学校の学びから

そこで私は、もっと福祉の専門的な知識と技術を学びたいと東京YWCA 専門学校に53歳で入学しました。翌年の1998年、介護保険法施行が迫った時、区が、近くの区立の小学校の空き教室を転用して、デイサービスセンターを開設し、その運営を、NPO 法人に委託するという情報がありました。すぐに仲間が集まり、その運営を担うことにしました。私は翌年の3月、学校を55歳で卒業し、開設の準備をしました。2000年の4月、無事、運営委託を受け、以来、施設長を15年、理事長を17年の間務めています。介護保険事業もNPO 法人も、学校の中での開設もモデルがなく、全くの手探りの連続でした。みんなで考えた2つのコンセプトが、羅針盤になりました。

- ・地域の中で支え合うシステムとして、機能していこう
- ・利用者の地域人としての生活の実態を重視する

そして何度もメンバーで話し合いを重ねて運営プランを作りました。

YWCA で学んだ「福祉の精神」や「福祉施設の社会化」というコミュニティワーク、そして実習先での体験、大量のレポート作成の学びは強い支えになりました。

### 地域で支え合い、つながる現場

現場では、地域に根差した支え合いの活動を進めたいという私たちの投げかけに応じて地域の人々の協力と参加が進み、現在では2つの事業に、年間延べ2500人のボランティア活動があります。その結果、デイサービスセンター「桃三ふれあいの家」のプログラム内容は俳句、謡曲、朗読、絵手紙、絵



小学校卒業を祝って、利用者さんが作った八角箱を卒業生に贈りました

東京YWCAヒューマンサービスセンター 施設長研修コーディネーター 遠藤 久江

私たちのNPOはこれまで新人研修や中堅職員の研修及び専門的な業務に特化した研修の依頼が多く、またそれらを得意としてきました。しかし、加えて今年度は2つの法人から施設長の研修依頼を受けました。

施設長は施設の業務全体を取り仕切っている方です。業務全体の責任者でもあり、また、時には施設の顔として知られる方です。各施設の事業はうまくいって当然で、何時も何らかの問題や課題をもちながら業務が進められています。

施設長研修の意義は各階層別研修や援助技術や介護支援内容の研修をより効果的にするためにも重要な研修であると思っています。多くの職員が忙しい中、せっかく研修を受けてきたのに、現場で試みようとしても受け入れられない雰囲気、気後れしもうちに時が過ぎてしまう、ということが起こっているのではないのでしょうか。

もし、施設長さんが職員の悩みや実践上の課題をよく理解し、その課題への取り組みを職員と一緒にしてくれたら、現場はどんなに活性化し、意欲的な雰囲気になるかわかりません。施設長は問題や課題を全体的にとらえることができますし、解決の見通しも時間的、空間的に長く、広くとらえて考えることをしなければならない立場です。その役割をどのように担えるかを考えているのが施設長だと思われます。おおむね施設長は社会福祉の世界でながらくお仕事をされている方も多いので、その経験の上に、新しい時代の潮流を加味して研修をしていただきたいと願って企画を立てました。

戦後70年のわが国の社会福祉の大きな流れ、憲法25条に明記されている大切な考え方、児童、高齢者、障害者福祉分野の現状と課題、利用者のニーズやその対応の仕方、組織のマネージメント、人権やリスクマネージメント、財務管理の問題等、多岐にわたりテーマを設定して研修をしています。このテーマのためにそれぞれの専門的なお話を下さる講師の先生のご協力があって実現しています。

### ◆◆◆ 第4回福祉・介護の講習会の報告 ◆◆◆

2016年9月3日、アサーション シニアインストラクターの富澤優江先生による「人と気持ちを通わせるために身に着けたいコミュニケーションスキル」の講習会を行いました。前回の講習会「性格分類エニアグラム」が大好評で、継続して研修を受けたいという意見を受け、再度、富澤先生にお願いし、実施することができました。今回は、会員、卒業生、福祉現場の方々、26名が参加。講義だけでなくグループに分かれてコミュニケーションスキルの体験をすることで多くの気づきにつながったようです。アンケートでは全員「役に立った」と回答されています。講習会の感想とご意見を一部ご紹介します。

◎とても楽しく、あっという間に時間が過ぎていきました。楽しいだけでなく、ひととのかかわりの中で大切なことを改めて認識できて良かったです。

◎分かりやすくて良かった。実際やってみて良く理解できました。現実となるとなかなかうまくできるかが心配。

◎介護だけでなく家族にも役立つものであると思いました。日々上手いいかないと思いながら接することもあるので、実践していきたいです。分かっているけどできないことがあることを築かされた研修でした。

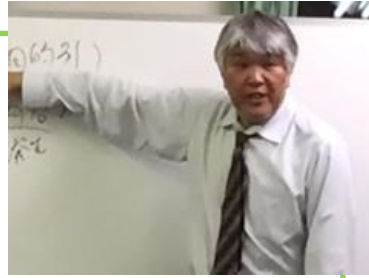
◎何度かいろいろな講習会に参加してまいりましたが、今日ほど心に入った講習会はありませんでした。家に帰って先ず家族から、そしてディサービスの方にも聞くということを実践してみます。どれだけ自分が変化できるか、そして相手が変わるか感じていきます。



集中して参加している受講生のみなさん

講師派遣研修事業は講師の先生方のお力に支えられています。  
今年度新しく講師として活躍して下さっている先生方をご紹介します。

### 富田 英保先生



施設長研修において、「法人経営における財務管理」をご担当。

#### Q1 先生のご専門は？

財務会計学を専門としております。そして生業としております。

#### Q2 当法人との関係

遠藤久江先生とのお付き合いから、関係を持たせて頂いております。かれこれ 10 年近く前になると思います。私が公益財団法人東京 YWCA の公益財団への移行のお手伝いをさせて頂いた際に、理事であったのが遠藤先生でした。その御縁で遠藤先生が理事であった、公益財団法人愛恵福祉支援財団の公益財団への移行のお手伝いもさせて頂きました。

#### Q3 研修の中で一番伝えたいこと、又は大事にしていることは何ですか？

モノゴトにはすべて原因があり、理由があります。この原因理由を理解しようとするのが、大切であると考えております。このような考え方を伝えられれば良いと思っております。かくいう私も、このような観点からすると未だに勉強中であります。

#### Q4 先生のチャームポイントを教えてください。

自身では書けないと思い、仲間に聞いてみました。

- ①いつもニコニコ
- ②ポッコリお腹
- ③ボサボサの髪（バイク通勤のため、ヘルメットをかぶっていると整ってしまう）



### 田島 誠一先生



施設長研修において、「社会福祉施設におけるマネジメント、職員育成、労務管理」他をご担当。

#### Q1 先生のご専門は？

福祉経営、社会福祉法人経営、福祉人材の確保・育成です。

#### Q2 当法人との関係

東京 YWCA 専門学校福祉科の継続についての検討会のメンバーになったことが、最初のおつきあいです。大学の先輩である遠藤先生のご命令に従っています。

#### Q3 研修の中で一番伝えたいこと、又は大事にしていることは何ですか？

福祉の心、人間を尊重する心、このことが無ければ仕事が回っていかないことを常に強調しています。サービスを提供する側も成長することを大切にしています。

#### Q4 先生のチャームポイントを教えてください。

何時間でも話せること！！丈夫なからだに生んでくれた亡き両親に感謝。

「ためになった」と言われるより、「おもしろかった」と言われると嬉しい自分！！

画、音楽、食事、囲碁、麻雀、園芸、外出、手織り、陶芸など多岐にわたっています。又、小学生、中学生の訪れも多く、高齢者の方の何よりの励ましになっています。

私たちスタッフも施設内に籠らず、他のグループ、団体と連携し、地域活動に参加しています。かがやき亭においても、趣味活動に自由に参加して一緒に食事をしたり、幼児や中学生の寺子屋食堂、映画会、ワイン会など制度にしばられない活動が、繰り広げられています。

「西荻・まちふれあい かがやき亭」は、寄付金を原資に、障害のある人、高齢者、子供など様々な人たちが日常的につながり、支え合いができるようになりたいという思いで開設しました。その期待は実現できていると思っています。

#### ビジョンの実現「共生」への模索

NPO 法人として、ビジョンの実現と継続のためのマネジメントの両立は容易ではありませんが「共生」の場所としての試みが、実りつつあることは大きな喜びです。

2025 年問題、2035 年問題の少子高齢化の深刻な状況が想定され、子供や高齢者の格差問題が重なると思われる近い将来、

「共生」が大きなキーワードになりつつあります。縦割り行政の下で、施設の増設だけでは、限界があると思います。

施設で働く人たちは、施設をオープンにして社会化を進め、自分たちも地域化を考え、街の中にいろんな人がごちゃ混ぜになりながらも、明るく暮らす方法を模索していくことが求められると考えます。

北陸の金沢に「シェア金沢」というまちが生まれました。障害者や障害のある子供、高齢者、学生が生活しています。「共生」の大きな試みが生まれています。私の故郷でもあるので 3 日間通って、見学してきました。3 年目を迎え、まだまだ課題があるようですが、日本の首相や世界の要人の視察があり、年間 2 万人の見学者があるとのこと。「共生」の必然への模索は実現されつつあります。

私たち、福祉従事者も自分の専門分野にとどまらず、様々な障害のある人、ない人さまざまな年代の人が、柔らかに「共生」するための想像力を培いたいものです。



京都の和菓子「水無月」を作りました。  
お抹茶を点て、作りたてをいただきました。

#### 介護保険事業所・高齢者在宅サービスセンター 桃三ふれあいの家

杉並区西荻北 2-10-7 TEL 03-5311-3631

**目的** 桃三ふれあいの家は、NPO 法人としての特徴を發揮しながら「人間としての尊厳を守り、生きる喜びのあるデイサービス」事業をしています。

- 活動**
- ・小学校、子供園、保育園、町内会など地域との交流
  - ・安全で美味しい手作り給食
  - ・たくさんのボランティアに支えられた多彩なプログラム
  - ・春のお花見散策、秋のおおかけ 等

#### 西荻・まちふれあい かがやき亭

杉並区西荻北 4-4-4 三益ビル 1F TEL 03-5303-5085

**目的**

- ・地域や家族から孤立しがちな高齢者や地域の人々が気軽に立ち寄れる場所づくりと生きがい活動
- ・心身の健康維持のための食事提供・要介護を要望し、暮らし続けることができる地域の福祉ネットワークづくり

- 活動**
- ・お楽しみタイム 月曜（囲碁）火曜（絵手紙）第 3 水曜（書道）木曜（歌の会）金曜（手芸）他
  - ・ランチと喫茶 月曜から金曜 11:30~16:00
  - ・お弁当配達
  - ・和の会
  - ・ウクレレ教室
  - ・集いレインボー おしゃべりしながら地域デビュー 夕食・お酒提供 木・金曜 17:00~21:00



◆◆◆ 見守り・支え・伝え合う仲間として ◆◆◆

NPO法人東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター理事長 遠藤 久江

特定非営利活動法人東京YWCAヒューマンサービスサポートセンターが産声を上げたのが2011年4月でしたから、5年の歳月が過ぎました。石の上にも3年とあってスタートしましたが、いつの間にか年月が過ぎてたってゆきました。

そもそもの出発が東京YWCA専門学校の閉校に伴い、これまで学生を育ててきた者達が、社会福祉の現場で大切に伝えていきたいと考えていたことが今後はどのように継承されていくのだろうかと考えたことです。教職員は悩みながら、継承の仕方として、卒業生が活躍している実践場へ出かけていって、励ましながら実践力を強めていきたいと考えました。即ち、研修者を派遣して研修を組織し、研修を実施する方法です。試行錯誤をしながら今の講師派遣事業として結実してきています。

NPO開設時は財政的にも不安定な時期が続きましたので、安定的な収入が見込まれた東京都福祉サービス第三者評価機関として認可を受けて、第三者評価活動を実施しました。沢山の卒業生が評価者として研修を受けて評価者となってくださいました。3年にわたって卒業生の働いている事業所を中心に評価事業も実施しました。しかし、質の高い、満足のゆく評価活動が出来ず、昨年度から実施していません。

私たちのような小さな団体には出来ることに限界があります。やるべきことや、やりたいことは沢山あっても、1年、1年状況を見極めて計画を立てなければ事業の継続はできません。現在大切にしている事業は講師派遣事業です。この事業は〇〇コンサルタントというような競争相手も沢山ありますが、旧東京YWCA専門学校の教育力と、志を同じくしてくださる多くの協力者と卒業生の力を借りてここまで進めることができます。

社会福祉の現場の最大の課題は良い働き人をいかに持続的に確保してゆくか、ということです。この課題に応えられる団体としてこれからも活動が期待されています。

◆◆◆ 2016年度上半期事業報告(2016年4月から2016年12月) ◆◆◆

1. 講師派遣研修

今年度は、右の表にあるように継続研修は、6法人と4施設等あわせて10の団体と契約をし、1回~4回までの単発研修は、13の団体と契約し、取り組んでいる。

研修内容も高齢分野の研修が全体の9割を占めているが、障がい分野や児童分野の職員育成にも取り組んでいる。階層別研修では、施設長をはじめ、管理職研修から新人研修まで実施し、研修内容は、施設長のマネジメント研修から、新人職員の接客研修、介護技術研修と様々な分野を網羅するようになっている。

当法人の講師派遣研修は、リピート率が約90%であり、途切れることなく契約に繋がっている。その理由は、研修効果を高めるための仕組みが機能していると言えるのではないかと。講師の方々には、研修終了後も、振り返りシートへのコメント、講師申し送り表の記載と協力いただいている。講師の皆様のご尽力により、研修への満足度が高く、信頼を得ることが出来ていると言える。

これからも、研修に対する要望、事業所の現状把握を丁寧に行い、それに基づき、研修計画を立て、講師との打ち合わせをおこない、各法人、事業所との連携を密に行うことで、質の高い研修の実現を目指し、信頼を損なうことの無いよう取り組んでいく。

2. 講座・講習及び福祉啓発事業

1) 第4回 福祉・介護の講習会 9月3日(土) 講師: 富澤優江氏

実施テーマ: 「人と気持ちを通わせるために身につけたいコミュニケーションスキル」

参加者は26名。内訳は会員7名・卒業生7名・非会員12名であった。福祉職に必要なコミュニケーションスキルというだけでなく、親子関係などすべての人間関係に共通なテーマと考え計画する。今回の講習会は、ケアワークの同窓会のお知らせに、チラシを同封できたことと同窓会の折にも、PRの時間をもらい説明することが出来たことで、卒業生の参加に繋がった。

2) 2回で身につく相談援助職スキルアップ講座 講師: 吉浦 輪氏(東洋大学教授) 2017年1月14日「家族の課題に対する基本的理解と相談援助面接スキルの向上」 2月18日「困難事例を紐解く グループスーパービジョンを通して」 生活相談員や介護支援専門員など相談援助職のために講習会を企画実施する予定。

3. 会員活動

1) 第4回の講習会終了後に親睦会を実施

お茶会とアロマのワークショップを企画し、15名の参加者であった。

会員以外に卒業生や会員の友人が参加。アロマの講習会ということで、気軽に参加でき、好評であった。

2) 会員のしおり・会員証の発行

当法人は2016年度に法人創設6年目を迎えた。会員に対し、法人の目的、事業について、より理解を求めると共に、会員拡大、活動の発展を願い作成する。会員のしおり作成にあたり、会員の鍋田さんにイラストを依頼、変化する東京YWCA会館周辺を楽しく表現してもらった。

・会員証の活用について

会員証の裏面にシール欄を作成。当法人主催の講座・講習会に参加した方に、参加シールを配布。シール2枚で講習会資料をまとめるバインダーをプレゼント予定。SDS(自己啓発システム)として活用することで、講習会参加を後押しする効果も期待している。

4. 広報

1) 会報 第12号200部 2016年8月4日発行 第13号200部 2016年12月20日発行

2) ホームページ刷新計画 ホームページ画面をリニューアルし、よりわかりやすくタイムリーに情報発信を行う。スマートフォン対応システム導入。2017年1月新システム導入予定。

2016年度 講師派遣研修実績 (2016年12月現在)					
講師派遣施設	研修時期	研修項目・内容	講師派遣施設	研修時期	研修項目・内容
A. 法人研修	4月~3月 4コース 3年目	施設長研修 新人研修 中堅研修 主任研修スーパービジョン	K. 法人研修 障がい分野	10月 6年目	グループホームリーダー研修
B. 法人研修	6月~3月 3コース 7年目	主任研修スーパービジョン 中堅研修の計画案2年目 基礎研修	L. 施設研修 特別養護老人ホーム	3月、9月 1年目	中堅職員研修(高齢分野) チームケアとリーダーシップ
C. 法人研修	4月~3月 2年目	管理職研修 相談援助職研修	M. 法人研修 高齢者	7~9月 1年目	全職員(接遇・リスクマネジメント) 2回×2回
D. 法人研修	6月~3月 3年目	主任級職員のスーパービジョン	N. 施設研修 特別養護老人ホーム	4月 1年目	接遇研修(高齢分野)
E. 法人研修	7月~3月 1年目	主任研修 チームワークとリーダーシップ エニアグラムを活用したコーチング	O. 施設研修 特別養護老人ホーム	4月 4年目	新人職員接客研修(高齢分野)
F. 法人研修	5月~2月 3年目	高齢者施設常勤職員研修(中堅) 高齢者施設非常勤職員研修	P. 法人研修 児童分野	1月・2月 3年目	児童分野職員研修(児童施設) 管理職研修(マネジメント) 一般職員研修(発達障害)
G. 施設研修 特別養護老人ホーム	16年9月終了、17年1月 開催予定 4 年目	中堅職員研修	Q. 法人研修 高齢分野	2017年 1月 3年目	主任研修(マネジメント) 1日5時間(高齢分野)
H. 施設研修 児童養護	4月~9月 3回×2 1年目	全職員(児童養護) 専門援助職として必要な知識と理念を 学び、課題解決に繋げる。	R. 訪問介護事業所 合同研修会	10月、11月 各2時間 1年目	障がい者・高齢者在宅支援事業所 職員研修 アサーション研修(障がい在宅)
I. 施設研修 知的障害入所施設	5月~3月 5回×2 2年目	中堅職員(知的障がい) 生活支援技術を見直す (移動・移乗・食事介助)	S. 通所事業所 合同研修	11月 2時間 1年目	高齢者福祉施設連絡会(高齢在宅) アサーション研修
J. 社協有償 ボランティア研修	4月~3月 3回×3 5年目	有償ボランティア研修 (高齢・障がい)	T. 老福連(老人福祉 の向上を目指す施設 連絡会)研修	1月 4時間 2年目	老福連加盟施設中堅職員(高齢分野) アサーション研修
			U. 通所事業所 連絡会研修	11月 2時間 4年目	通所介護事業者連絡会会員 職員研修 (高齢分野) 接遇研修
			V. 通所事業 障がい分野	11月 2時間 1年目	職員研修 (障がい分野) 仕事の基本と倫理
			W. NPO有償 ボランティア研修	2月 3時間 2年目	買い物サポート事業(障がい・高齢分野) スタッフ研修 介護保険の仕組みと訪問 サービスの役割
			X. 社協有償ボラ ンティア研修	9月 2時間 1年目	有償ボランティア会員研修 (高齢分野) 地域住民が支え合う在宅サービスとは

